

第8回 検討委員会（9月12日）における委員からの意見や助言について

RD 最終処分場周辺自治会の皆さんとの話し合い  
平成24年10月18日

資料-3

	協議事項	委員意見・助言	県方針
3	底面遮水工について	【小野委員】底面遮水補修工の施工時には湧水処理の問題が生じるため、施工場所に応じてセメント改良土のみだけではなく、ベントナイトや粘性土などの他の工法（材料）も対応できるようにしておくことが望ましい。	① 施工性、耐久性、経済性等の諸条件を勘案し、ベントナイトや粘性土の使用を含め、広く工法の検討を行います。
4	鉛直遮水工について	【梶山委員】鉛直遮水工はソイルセメントを用いる計画のようであるが、遮水性や耐久性は十分にあるのか？通水性を確認するモニタリングが必要と思われる。	① 例えば TRD 工法は、連続した施工により品質高い遮水壁を構築することが可能で、処分場での採用実績も多数あります。 ② ベントナイトを混合する方法もありますが、施工管理をしっかり実施することで品質を確保することが重要と考えています。 ③ 処分場内の浸透水位低下工法を採用するため、最終的には場内の水位は場外よりも低くなることから、実際には漏水よりも周囲から地下水の流入防止が課題となると考えています。 ④ 遮水壁の外側に設置する観測井戸と内部の観測井戸を用いて、内外の水位差が適正に保たれているのか、周辺地下水の水質に問題は無いのかを、継続的にモニタリングしていく計画です。
		【樋口委員】土質に有機物が多いとコンクリート構造物の強度が落ち、遮水性が落ちる。これまでの漏水事例はそういう場合であった。	① 土質に有機物が多く、コンクリートの強度が落ちた事例は、関東地方以北や九州地方などに多い、黒ボク土などの有機物の含有量が高い土壌が混入した場合、あるいは廃棄物土から溶出した浸透水中の有機物濃度が高い場合などです。 ② 本現場には、黒ボク土は無いため、有機質土の混入については、問題ありません。 ③ ただし、浸透水中の有機物について注意する必要がありますので、事前に浸透水を用いた配合試験を行う必要があります。 ④ ③の試験結果から、強度低下が起こらない配合比などを決定する計画です。
5	処分場の早期安定化について	【小野委員】工事中もモニタリング井戸はできるだけ多く残しておいて、場内の安定化に向けた井戸の再利用を考慮してほしい。 【小野委員】有害物掘削範囲に立坑は設置するのか。掘削した廃棄物層の場所に立坑を設置することは、ボーリングを実施するよりも楽である。	① モニタリング井戸は、出来るだけ残るように配慮した計画とします。 ② 底面遮水層修復のための廃棄物土掘削範囲、また有害物除去を目的とした掘削範囲においては、選別土による埋め戻しを行う際に立坑（排気管）を設置し、埋立物の準好気化による安定化の促進を図ります。
6	水処理について	【樋口委員】オーバーフロー水が発生しそうな状況の時には、水処理各工程の処理能力を幅（余力）を持たせたフローとして置けば対応しやすい。	① 適正な水処理能力については、詳細設計の中で検討いたします。